

西尾けんいち 前県議会議員 市政報告

発行所 西尾憲一事務所 〒273-0865 千葉県船橋市夏見4-16-4 TEL.047-460-1061 FAX.047-460-1062

# 前市長

# 妻が理事長の社福に特養認可



8月4日付け朝日新聞朝刊全国版の特集「報われぬ国負担増の先に」で、藤代前船橋市長が在任中、自らの妻が理事長を務める社会福祉法人に新しい特別養護老人ホームの建設を認め多額の補助金を支出したり、市の土地を借りて運営する新しい認可保育園の開設を決めたりしたことが、大きく報じられました。市民全体の利益を第一に考えなければならぬ市長が、身内の社会福祉法人に認可を与え、選定決済の市長印を押しした行為はだれもが首をひねります。多くの市民が疑問を抱いたことでしょう。公正さが疑われる為政者による行為は市政への信頼を大きく損ねるもので、決して許されるものではありません。

船橋市倫理条例の制定が必要です。

一方、藤代前市長の懐刀だった現職の松戸市長は、この事実を知らないわけはありません。私が市長ならば、市長就任と同時に決定を取消し、選定をやり直していました。松戸市長は市長選で全面的な支援を得た前市長の疑惑に果たしてどう対処するのでしょうか。

## 船橋市特集

# 新聞報道 対応できるか松戸市長



建設中の特別養護老人ホーム(みやぎ台)

藤代前市長は、平成9年、当時の大橋和夫元市長が社会福祉法人と癒着していると指摘し、開かれた市政を目標に掲げて初当選しました。それにもかかわらず、

平成9年7月から25年7月までの4期16年の間に、妻が理事長を務める社会福祉法人「南生会」は各種福祉事業の設置運営事業法人として市の認可を受けています。

平成11年、市施設、船橋市南部福祉会館を使って老人デイサービスセンター事業を、平成12年には同じ南部福祉会館で在宅介護支援センター事業を始めています。

### 特養建設、市から4億円の補助金

そして、昨年1月には、市から約4億円もの補助金を受け、特養の建設が認められています。

8月4日付け朝日新聞特集の抜粋では、「昨年1月、前市長の藤代孝七氏(71)が市長在任中に、市内にある社会福祉法人『南生会』にこの特養の建設を認めた。南生会の理事長は、前市長の妻が務めている。

また、藤代市長退任の1週間前の昨年7月には、市などから約2億円の補助金を受け、市の土地を借りて新しい

平成11年、市施設、船橋市南部福祉会館を使って老人デイサービスセンター事業を、平成12年には同じ南部福祉会館で在宅介護支援センター事業を始めています。

### 市有地への保育園にも選定される

その時の審査には、前市長が委任した学者ら6人をつくる第三者委員会があつた。12年末に応募してきた

九つの社福の書類などを審査し、南生会など五つの社福に新しい特養の建設を認めることを決めた。南生会が

提出した書類をつづつたのは、特養の審査を担当する船橋市福祉サービス部の前部長(当時)だった。10年に市を退職し、南生会に再就職した。

妻の理事長は「市の福祉サービス公社の理事に推された。すごく優秀で、考えに考えて(資料をつ)つくと話していた」と語る。この特養ができたなら、施設長に就く予定だという一連の経緯が書かれています。

また、藤代市長退任の1週間前の昨年7月には、市などから約2億円の補助金を受け、市の土地を借りて新しい認可保育園を開く。市などから約2億円の補助金を受け、約1600平方メートルの敷地に160人の子どもを受け入れる保育園を建てる予定だ。昨年5月、市が新しい保育園をつくる社福を募ったときに応募した。審査には学者や市の子育て支援部長ら7人の委員があつた。

委員会は前市長が退任する1週間前の7月11日に開かれ、応募してきた五つの社福から南生会が選ばれた。その決定を認める決済印は

前市長名だった(平成26年8月4日朝日新聞より)

いずれも、第三者委員会の審査を経て選ばれたことになっていますが、委員はなんら疑問を持たずに市長の身内が理事長の福祉法人を選定したのでしょいか。誰もが疑問に思えることではない。

藤代前市長は「審査する委員が選んだだけ。問題はない」と話しているようです。果たしてそうでしょうか。選定の公平性を担保し李下に冠を正さずという意味で、市長家族は在任中応募を自粛するのが当然でしょう。

(裏面に続く)



# 政治倫理条例の制定を

「茨城県笠間市の山口伸樹市長(55)は父から引き継いだ社福尚生会の理事長を務め、尚生会は市内外で特養3カ所やグループホームなどを運営している。

市長には茨城県議を経て06年に就任した。市ではこの年、市長や市議、その配偶者らが役員をする会社は、市から工事や業務を請け負うのを禁じる「政治倫理条例」が定められた。

昨年5月、市の幹部や学者ら8人でつくる選定委員会が、新しい特養を運営する社福を選ぶ会議を開いた。応募した社福のなかに尚生会はなかった。

「理事長の私が申請して市長の私が決めるのは常識的におかしい。委員は実績や提案力を評価して順位をつけており、市長が別の社福を選べば住民からゆがんでいるとみられる」。山口市長はこう指摘する(平成26年8月4日朝日新聞より)。これが良識ある判断です。

船橋市でも公共、工事の請負については、例えば、市長の親子や兄弟が建設会社の社長の場合、市は、その会社に工事請負の委託ができない規則があります。福祉や教育などであつて



保育園建設予定地(行田)

も、補助金が入る場合は規則が無くても規制対象にする必要がある、同様に解するのから許されると解するの

は非常識、良識を欠いた判断であり、市長の椅子に座った者のモラル意識の低さを表しています。「法は法なきを期す」とい

う法格言があります。法律や条令を定めなくても、世の中の秩序が保たれることが理想という意味です。しかし、良識が守られない以上、残念ながら船橋市でも市長や市議、その配偶者らが役員をする会社、法人等は、市からの工事や業務を請け負うことを禁じる「政治倫理条例」が必要と考えます。

## 行政サービス 不公平解消を

行政サービスは、市民が等しく税金を納めている以上、地域による差がなく平等に受けられることが望ましいことは言うまでもありません。

船橋市は、早くから市内を五つの地域すなわち北部、東部、中部、西部、南部地域に分け、地域包括支援センターや保健センター、老人福祉センターや図書館等の広域的施設を配置してきました(いわゆる5館構想)。

しかし、中部地域すなわち高根金杉地区、夏見地区、新高根芝山地区、高根台地区には、夏見台に老人福祉センターがあるのみで他の施設がなく、他の地域との差は



公民館補完施設の市民センター(三山)

また、運営についても、市民有志のボランティアや有償ボランティアにご協力いただけたらと考えます。退職高齢者や主婦の知識経験を活かすことにもなり、生きがい・健康・仲間づくりにもなると考えるからです。

## (仮称)御滝市民センター建設を

金杉・二和・三咲地区にまたがる広い地域に公民館圏外が存在するため、(仮称)御滝市民センターを建設すべきです。

地区コミュニティセンターの中心施設である公民館も、最後の坪井公民館が建設され、26館構想が達成された。

公民館は、概ね半径1・2キロ圏内、徒歩で15分から20分で利用可能な人を対象にしているが、公民館と公民館の間は、概ね半径1・2キロ圏外でも、人口集中地域が見受けられるので、公民館の補完施設として市民センターを建設すると、1館目の三山市民センターが建設されました。

しかしながら、御滝公園周辺の金杉5・6・7丁目、金杉台2丁目、三咲1丁目、南三咲2・3丁目、二和南部地区には、公民館の圏外の地域があり、面積的にも人口の点からも1・2キロ圏外の三山・習志野地区のそれらと変わらない状況で、その上東葉高速と交差する新京成の沿線地域として人口も大きく増えました。

行政サービスの不公平を解消する上からも、また、二和公民館は、利用する市民が多いため思うように会場が確保できないとの声も多く、補完施設としての市民センターが是非必要と考えます。

財政事情を考え、建設にあたっては、PFI方式の採用も検討すべきです。PFI方式とは、民間資本主導の略で、民間のノウハウによって無駄なコストが省かれ、質の高い公共サービスが提供できるとされています。学校や病院などの公共施設の建設などに導入されることが多いといわれます。

## 多選禁止条例の制定も

藤代前市長は、大橋元市長の5選立候補を多選と批判し、自らは3期までを公約として立候補したにもか

かわらず、その後4選に立候補し当選。新聞で報道された問題の選定はその4期目になされました。長すぎ

る権力の座は幾多の問題を引き起こします。本市でも多選禁止条例を制定する必要があるとあります。



# 西尾けんいち

〒273-0865 船橋市夏見4-16-4  
TEL047-460-1061 FAX047-460-1062  
ホームページ <http://k-nishio.com/>  
Eメール [nishio-kenichi@nifty.com](mailto:nishio-kenichi@nifty.com)  
モバイルページ <http://www.k-nishio.com/i/>



### ○経歴○

昭和25年12月 石川県金沢市生まれ  
昭和44年3月 県立金沢二水高校卒業  
昭和48年3月 早稲田大学第一法学部卒業・農業・会社員代議士秘書  
平成7年4月 船橋市議選で初当選  
平成11年4月 千葉県議選で初当選  
平成12年6月 衆院4区の自民党公認候補

平成13年3月 千葉県議補選で再選  
平成15年4月 千葉県議選で3選 県土整備常任委員会委員長  
平成19年4月 千葉県議選で4選  
平成21年3月 自民党を離党し千葉県知事選立候補  
平成23年4月 千葉県議選で5選  
平成25年6月 船橋市長選立候補  
現在 無所属 環境福祉学会会員